

とやま 輝く!! 富(む)山の仕事人!!

川上～川下まで、森林・木材に関わる様々な分野で頑張る人を紹介します。

新川森林組合 森林作業員 石川 貴義さん

今回ご紹介するのは、新川森林組合で森林作業員として活躍する石川貴義さんです。



いしかわ たかよし 石川 貴義さん

石川さんは、昭和50年生まれの46歳。民間企業に勤められた後、平成11年に新川森林組合に就業され、23年目となるそうです。

仕事に対して真面目に取り組み、決して手を抜くことがなく、就業して7年目には30歳の若さで作業班長に抜擢されるなど、周囲から期待される存在の石川さんです。

1 現在の業務内容

就業当初は、保育の仕事を主に行っており新植、雪起し、下刈、間伐、枝打ち等の作業は一通り経験し、森林の目標林型を考えながら作業に取り組んでおられたそうです。

現在は、屋敷林の伐採や送電線等の線下伐採、土木工事の支障木伐採を中心に、3名の

班長として作業に従事されています。

業務を行うにあたって必要となる技能講習等を積極的に受講され、現在は20を超える資格を取得されており、新川森林組合で開催されたチェンソー技術大会で優勝するなど、その技術はトップレベルです。

2 森林組合に勤務するきっかけ

森林整備に熱心に取り組まれる石川さんですが、森林組合に就業するきっかけは、民間企業の退職後にアルバイトとして飲食業に勤めていた頃、お客として来られていた森林組合の方に、「山に遊びにおいでよ。」と誘われたことだそうです。

作業を始めてみると、体力に自信があった石川さんでも辛かったそうですが、先輩の「若い奴はすぐにやめていく。」という言葉に「負けん気で頑張ってきた。」そうです。

一方で、「厳しい先輩方々から助けられてきた。」との言葉に石川さんの誠実さが伝わってきました。

3 仕事への思い

当初は厳しいと感じていた仕事も、伐倒がイメージ通りにできるようになってきた4年

目頃から楽しくなってきたそうです。

「喜んでもらえるいい仕事がしたい。いい仕事をすると次の仕事につながる。」との思いがあり、支障木伐採では次の人の作業がやりやすいように作業することを心がけており、事前に発注者との打合せをしっかり行うそうです。今では石川さんをお願いしたいと指名が入ることでした。



樹形を見て伐倒方向を確認 石川さんの目は厳しい

4 今後の抱負について

機械が入らないような場所での特殊伐採に携わっていききたいと考えておられ、理由をお聞きすると、「他の人がやらない自分しかできない仕事に挑戦したい。」と、非常に前向きな石川さん。今後、益々活躍されることを祈念しております。

文責 新川農林振興センター林政・普及班